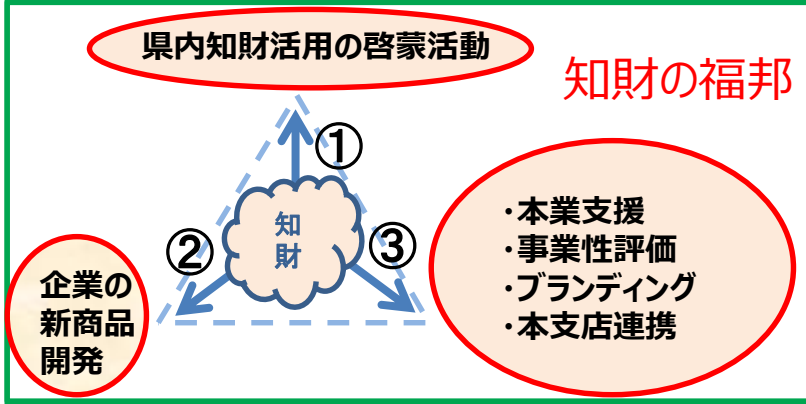
福邦銀行 【福井県】

■ 総資産：4,703億円、39店舗、
福井県福井市 （2019年3月末）

知財活用の取組み3本柱

【知財活用方針】
■ 知財情報を切り口とした本業支援の実施。組織展開・本支店連携の構築
■ 県内企業に対し知財・開放特許にて新商品・新製品開発に繋がる事業化支援
■ 啓蒙活動として県・FOIP（産学官金）等と連携して知財促進セミナー
■ 「知財の福邦」のイメージ訴求を推進



①・②知財ビジネスマッチング事業（H23年～実施）
✓ ライセンサーの開放特許（シーズ）を使い中小企業のビジネス創出・新商品開発を支援
✓ 県・FOIP（産学官金）等と連携し知財関連セミナー実施

③知財金融促進事業
✓ 支店担当者と本部（法人営業G）が連携し、知財情報の事前収集を実施。知財専門家と連携して企業訪問
✓ 知財情報（出願情報等）を活用したヒアリングで知財ビジネス提案書を作成。企業との関係強化

福邦銀行【福井県】

①啓蒙活動

セミナー開催　2019年度2回実施
■「ビジネスにおける知財活用」
講師：(独)工業所有権情報・研修館知財戦略エキスパート
■「食品加工研究所の支援業務と開発技術の紹介」
講師：福井県食品加工研究所長
参加者：20名×2回

②新商品開発

ライセンサー	開放特許	進捗状況
アークレイ㈱	老化を抑制する機能性食品素材	アークレイ㈱より商品サンプル取得し味噌3種類に混合。成分試験をアークレイ㈱に依頼、試験中
キューピー㈱	カスタードプリンの食感改良	既存の玉子豆腐、茶碗蒸しと異なる食感の玉子総菜を検討しており、サンプル受領し検討中

③知財金融促進事業

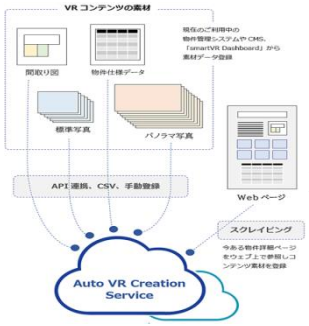
リストアップより　特許：3先　・商標：2先を選定

●本部（法人営業G）が知財情報の事前収集を実施。
支店担当者に連絡し、知財専門家と連携して、企業へ訪問
●知財情報（出願人情報等）を活用したヒアリングで知財
ビジネス提案書作成。事業状況の認識を経営者との間で
すり合わせつつ、今後の事業展開に対する想いや方針を把握
●支援機関としてのサポート体制（外部機関連携等）のほか、
知財活用に対する本業支援を行い、企業との信頼関係を強化
●自行内においてもビジネスモデル俯瞰図・事業性評価に活用

福邦銀行【福井県】

(株)全景様への支援

知財ビジネス提案書を活用した事業展開の深掘りを実施。知財専門家を交えたディスカッションを通じ新たなビジネスの種を深掘り



間取り図と写真を取り込み自動でVR化する技術

- 不動産業界向けVR(仮想現実)技術の特許申請には数十回にわたる引越し経験があった
- 業界常識にとらわれず仲介・売買業務の効率化をデジタルで実施
- 事業継続には特許で権利化して発展させる

知財専門家を交えて深堀りディスカッションを行ったところ新たな事業を発見

- ✓ 地元石川県名産品「五郎島金時」の逸話があった
- ✓ 出荷等級判定作業時間をAIを活用して半減
- ✓ 様々な業界とコラボレーションする事で課題解決を行い社会の持続的な生産性向上に貢献する活動を開始した

福邦銀行【福井県】

(株)武生製麺様への支援

知財情報から、同社のブランディングに対する支援ニーズを把握。専門家の活用方法を提案しつつ、今後取り組むべきことについて優先順位をつけ提案

- 直営農場を持ち、自社製粉、つゆづくりまでを一貫生産
  ⇒良質なものを大量に生産が可能
- 生そばの全国シェアトップレベル

- ✓ 経営者のみならず品質管理責任者と事業展開について、ディスカッション、アピール面での課題共有
- ✓ これまで自社が推していた部分とは異なる価値を客観的視点から提言。アピールするフレーズ、パッケージ表記、新ブランドの起ち上げ等提議
- ✓ 知財化されているものだけではなく、ノウハウ化されている部分（他社では真似できない生産技術等）のアピールについて共有

㈱KOU様への支援

知財の専門家も交えて対話を行ったことで、事業構造や市場特性を鑑みながら、知財の視点で気を付けること、取り組むべきことについて優先順位を整理

- 特殊ＬＥＤ　企画・設計・製作
- メタルハライド灯の代わりになるLED集魚灯の試作品製作し注目される

- ✓ 知的財産対応の重要性を再認識
- ✓ 専門誌へのプレスリリース・釣り業界有名人を使った営業等販路を協議
- ✓ 提示された知財ビジネス評価書のフレームにより、事業計画を再考する機会となった